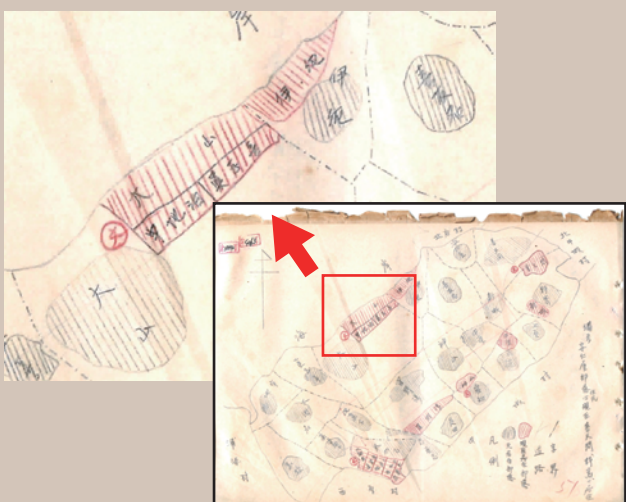


大山の戦後

戦後、本島北部等の各収容所から帰村した大山住民は、野嵩・普天間地区に一時、居住し、1946(昭和21)年11月から米軍から一里原・大石之花原・新里原・名利瀬原の4地域に限り、割当てとして居住が許可されました。

米軍は翌年6月、大山住民の割当て居住地の南に接して、米軍は宇地泊と真志喜の住民を居住させました。宇地泊は1951(昭和26)年、真志喜は1955(昭和30)年に解放されましたが、元集落の大半はそれぞれ米軍のキャンプ・ブーンとキャンプ・マーシーとして、接收されており、戻ることができませんでした。

大山住民は1950(昭和25)年、元集落が解放となり、ようやく戻ることができました。



◆軍使用のため土地を使用して居る者及移動未許可の人員及其の居住部落名調の件(1949年5月23日付)

昭和初期の大山集落イメージ



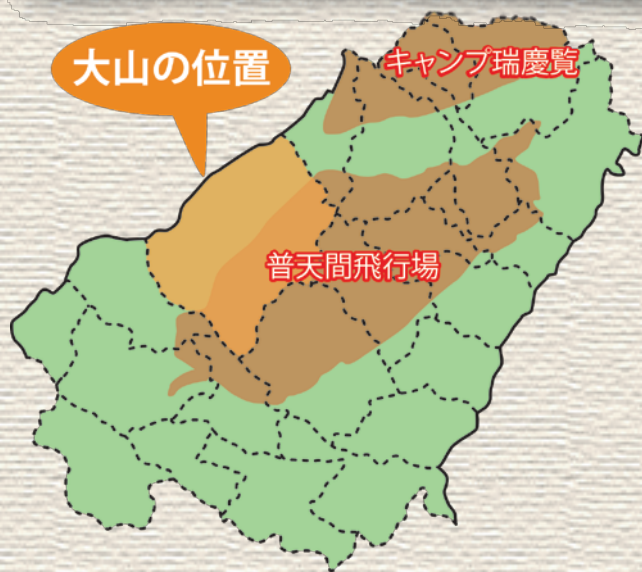
大山について

大山は、方言で「ウヤマ」と読みます。古い文献によれば、「志やな」「大山」「呉志川」「謝名呉志川」などの名称であった時代もありましたが、近代以降は「大山」となりました。

メンダカリヒーガーをはじめとする豊かな湧き水が、「大山ターブックワ」と呼ばれる広い水田地帯を潤しています。水田では稲作が行われていましたが、1965(昭和40)年より田イモ栽培へと変わり、現在では特産品として有名です。

旧暦の6月に行われる綱引きは有名で、大きな災害が起こった年に、人びとの気力や元気を出すために行われたといわれています。現在では、「豊穡祈願」「厄払い」「子孫繁栄」を願って、旧暦6月15日に近い週末に催されます。

世帯数：3340 世帯
人口：7555人(平成30年12月現在)



平成31年3月15日発行
編集・発行 / 宜野湾市教育委員会 文化課
〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩1-1-2 TEL.098-893-4430
編集協力 / 久永情報マネジメント株式会社
〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町2-57-4 TEL.098-882-4272
印刷 / 株式会社 沖産業
〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐2-1-1 TEL.098-898-2191



大山歴史文化遺産マップ



⑩ヒャーカーガー
大山湧泉群のひとつです。現在は農業用水に利用されています。



⑪ナイシガー
大山湧泉群のひとつです。現在は農業用水に利用されています。



⑫沖縄県営軽便鉄道大山駅跡
沖縄県営軽便鉄道は、戦前に運行していた鉄道で、大山駅は那覇と嘉手納を結ぶ嘉手納線の駅のひとつです。普天満宮の参詣客を運ぶ客馬車やサトウキビなどの貨物の取り扱いで、にぎわいました。



⑬大山洞穴
1964(昭和39)年、アメリカ人の少年によって化石人骨の下顎が発見され、大山洞人と命名されました。洞穴は、現在は残っていません。写真は宜野湾市立博物館で展示しているレプリカです。



⑭オーグムヤー(フルチンガー)
大きな洞穴の開口部から湧水が流れ出ています。湧水は周りの土地を侵食して、側面が急なオーグムヤーガーラという川となっています。現在はコンクリートで覆われています。